

平成 28 年度 第 1 回教育課程編成委員会 記録

日 時：平成 28 年 6 月 7 日（火）14:00～15:30

場 所：名古屋芸術大学保育専門学校 本館 2 階会議室

出席者：小川英彦(愛知教育大学教授)、高田道雄(マハヤナ幼稚園長)

鎌倉博(名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園長)、

川杉省三(愛知県私立幼稚園連盟理事)、武石協子(たきこ幼児園長)、

藤澤卓美(校長)、畔柳守男(副校長)、木村節治(保育科長)、浦野忍(教学主任)

議 長：校長（記録：浦野）(敬称略)

1. 開会のあいさつ

副校長から開会のあいさつがされた。

2. 校長あいさつ

校長から出席者へのあいさつがされた後、教育課程編成委員会の内容と職業実践専門課程の概要説明がされた。

3. 出席者紹介

副校長から資料に基づき委員の自己紹介が行われた。

4. 委員の委嘱について

校長から、各委員へ委嘱状が手渡され、全員に承諾された。

- ・愛知教育大学 小川英彦教授（有識者委員）
- ・マハヤナ幼稚園 高田道雄園長（保育科第二部 企業等委員）
- ・名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園 鎌倉博園長（保育科 企業等委員）
- ・愛知県私立幼稚園連盟 川杉省三理事（業界団体委員）
- ・社会福祉法人NUAたきこ幼児園 武石協子園長（保育科 企業等委員）

5. 議長選出

副校長より、議長選出について提案説明がされ、内規第 4 条 2 項に基づいた審議の結果、藤澤校長が議長として選出された。

6. 説明

(1) 本校の現状について

- ①本校の就職、募集状況について資料を基に保育科長より説明があった。
- ②職業実践専門課程の準備について副校長より説明があった。
- ③平成 28 年度 教育目標・指導理念・指導方針・本年度重点努力目標について資料を基に校長より説明があった。
- ④本校の教育課程について学生便覧・講義要項・時間割・年間行事計画の資料を基に教務主任より説明があった。
- ⑤教育実習・保育実習のプレ実習・本実習の取組・実習期間等について資料を基に

保育科長より説明があった。

⑥自己評価・学校関係者評価の結果について副校長より資料を基に説明があった。

⑦学生による授業評価の結果について資料を基に校長より説明があった。

⑧平成27年度第2回教育課程編成委員会議事録と意見の反映について資料を基に校長より説明があった。

7. 教育課程の改善にむけての協議（本校の教育目標の具体化等について）

（外部委員：○ 学内委員：□）

(1) 現状説明に関する質疑・意見

①学校の広報活動について

【 保育科・保育科第二部 共通事項 】

○現代の子ども、保護者、地域を見ながらセールスポイントを探す必要がある。

○滝子幼稚園、たきこ幼児園との連携は大いにPRできるポイントである。

○学生と子ども達のふれあいを写真等でHPに掲載するとよい。

○求人は、園によって学校の括りで採用する、しないというところがある。幼稚園や保育園にもっと本校の魅力をPRすべきである。

□進学を考えている方達の情報収集源の多くはスマホである。昨年度からスマホに対応したHPに作り替えた。

□本校の魅力を3つにまとめ、パンフレット、HP等へ分かりやすく記載した。

□前回ご指摘いただいた本校の所在の分かりにくさについては、道案内の設置と校舎壁面に校名の掲示を行う予定である。

【 保育科第二部 指摘事項 】

○夜間部があり社会に大いに貢献していることをもっとPRすべきである。

□保育科第二部は、昼間、保育現場で保育補助の仕事をする学生が多くおり、実践と学習とが繋がっている。そうした学生は卒業時点ではとてもよく育ち、就職先では即戦力となっている。今後、広報面でさらにクローズアップをしていきたい。

②学生指導・教育に関する意見

【 保育科・保育科第二部 共通事項 】

○子どもは本来、やりたがり屋、知りたがり屋であり自ら学んで行く。しかし、保護者、職員の自然体験が不足している。人工的にセットしたものでなく、本物の自然による感動体験が必要である。

○精神的問題を抱えた学生への支援体制を充実する必要がある。

□週1日、外部の専門カウンセラーによる心理相談室を開室している。利用する相談学生も多く、大変有用である。学生の精神保健の重要性は全教職員、共通認識しており、昨年は専任教員対象の学内研修では研修テーマとして取り上げた。

○保育科と保育科第二部ではプレ実習の持ち方に多少の違いはあるが、大いに魅力がある。

- プレ実習については、目的・方法等、今後とも検討していく課題である。
- 苗やアサガオ、ひまわり等の育て方が分からない学生が多い。園によっては、米作り等の体験実習を行っているところがあるが、そうした園に栽培についての実習に出るのもよいのではないか。
- 学生への個別の対応が必要な時代である。実習後の事後指導であっても1対1での指導が必要となってくる。
- 学生の幼児教育の現場への参加をどう促すかが問われる。保育園、幼稚園でのボランティア等へ参加するとよい。それが学生の成長へ繋がるのでは。
- ボランティア活動が有意義であることは理解している。学生には積極的に参加するように促している。しかしアルバイトの必要がある学生が多く、特に保育科第二部では、時間的にも金銭的にも身体的にも余裕がないという状況である。そんな中でどのように取り組めるかが課題である。
- 学生の図工の作品を幼稚園、保育園の中に飾り展示するのはどうか。
- 現代の学生の特徴をつかむことで、指導のあり方が見えてくるのではないか。
- 保育科、保育科第二部ともに全体の授業の充実が大切である。
- 保育科、保育科第二部ともに学生による授業評価を取り入れている。専任教員については研修を課している。

③ステークホルダーに関する意見

【 保育科・保育科第二部 共通事項 】

- 名芸大との連携はどうか。大学の研究紀要への掲載など連携を検討すべきでは。また、同窓会とも色々と連携して取り組むべきである。
- 名芸大との連携に関して、授業については、本校での授業内容は、保育士養成、幼稚園教員養成の関係上、厚労省文科省の指定する教科、内容があり、それに沿わなければならない。更に、学校の教育目標とリンクしたシラバスでないといけない。そうした点をふまえて授業の連携を考えていく必要がある。また、教員の連携では、今年本校教員3名が名芸大の授業を一部担任している。学生の連携では、今年本校卒業生1名が名芸大の人間発達学部3年に編入学している。

- (2) 「本校の教育についての全体の感想」と「改善に向けての提案」について、8月末までに各自提出し、次回の資料としていく。

8. 今後の予定

現在、力を入れて取り組んでいる課題は、卒業時の具体的な学生の姿を明確にすること（ディプロマポリシーを構築すること）である。その後の課題としては、昼夜という環境の違いを考慮し、それを達成する方策を更に検討し深めていくことである。

次回開催 平成28年10月18日（火）14:00～